

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 斜里町立知床ウトロ学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例：小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒099-4352

北海道斜里郡斜里町ウトロ高原20番地

E-mail _____

Website <http://shiretokoutoro.co-site.jp/htdocs/>

幼児児童生徒数 男子 39名 女子 34名 合計 73名

幼児・児童・生徒の年齢 6歳～15歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「たくましく 未来を築く ウトロの子」を学校理念として、ESDの実践を通して社会や自然と自分とのつながりを意識し尊重する態度の育成を目標とした。

具体的には、①地域の産業に係わる活動、②世界自然遺産に係わる活動、③国際理解に係る学習を行った。

① 地域の産業に係わる活動

ウトロ地域の主な産業である漁業についての学習を通して、ウトロの海の豊かさと人との関わりを実感し、今後も持続可能な社会として発展していくことができるよう探究活動を行った。サケマス孵化場見学、漁船に同乗して鮭の定置網起こし体験を通して、地域の産業を守るためにどのような工夫を行っているかを調べるとともに、人と自然とのつながりを実感した。

② 世界自然遺産に係わる教育

地域の自然環境について探究することを通して、知床が自然遺産として認定されるまでにどのような工夫や苦労があったのか、自然遺産としてどのような特徴があるのかを調べ、実際に自然遺産内でフィールドワークを行って実情を把握し、持続の可能性を考えた課題を設定した。また、学習を通して分かったことをパンフレット等にまとめ、地域の道の駅で観光客に説明し、9年生の修学旅行では、道内の基幹空港である新千歳空港で発信活動を行った。

③ 国際理解に係わる学習

1年生から4年生で学校独自の教科「英語」を週1時間設定し、1年生から9年生までの系統性を意識した教育課程を編成・実施した。また、11月中旬に他市町のALTをゲストティーチャーとして招き、イングリッシュキャンパスを開催した。当日は、児童生徒が積極的に英語を使ってコミュニケーションを図っており、多様な文化に触れ合うことができた。



① の写真（鮭の定置網起こし体験）



② の写真（空港でのPR活動）



② の写真
（フィールドワークでクマと遭遇）



③ の写真（イングリッシュキャンパス）

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

| | | | |
|---|---|--|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境 | <input type="checkbox"/> 2. エネルギー | <input type="checkbox"/> 3. 防災 | <input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性 |
| <input type="checkbox"/> 5. 気候変動 | <input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性 | <input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産 | <input type="checkbox"/> 8. 人権・平和 |
| <input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉 | <input type="checkbox"/> 10. 食育 | <input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費 | <input type="checkbox"/> 12. 貧困 |
| <input type="checkbox"/> 13. エコパーク | <input type="checkbox"/> 14. ジオパーク | <input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED) | |
| <input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等 | <input type="checkbox"/> 17. その他() | | |

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

| | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力 | <input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力 | <input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力 |
| <input type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度 | <input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度 |
| <input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度 | |
| <input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入) | |

ウ. 活動時間 (複数選択可)

| | |
|--|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間 | <input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間 |
| <input type="checkbox"/> 3. 特別活動等 | <input type="checkbox"/> 4. クラブ活動 |
| <input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述) | |

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

| |
|--|
| |
|--|

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

生活及び総合的な学習の時間を中心に各教科の学習内容と関連付けて教育課程を編成している。また、義務教育学校として、1年生から9年生までの系統性のある教育課程となるよう、3・7年生では自然環境について、5年生では地域の産業と福祉について、4・6年生では地域の歴史や観光地としての課題について、8・9年生ではこれまでの学習内容のまとめ、発信する活動を設定している。

1年生から4年生においては本校独自の教科「英語」を設定するとともに、外国人のゲストティーチャーを招いてイングリッシュキャンパスを行うなど、国際理解及びコミュニケーション能力の育成に努めている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

義務教育学校として、4-3-2のブロック制を導入し、各ブロックの目標を設定して、目指す子ども像を明確にしながら活動している。具体的には、ブロックを単位とした学校行事の取組、長期休業前の集会、ブロック独自の企画（レクリエーションや作文発表）、ブロック修了式等を実施し、9年間の円滑な接続を意識した取組を行っている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

- ・ 学校評価アンケートを年に2回実施し、学校改善に向けて検証・分析を行うとともに保護者・地域に対して改善策を提示している。
- ・ 総合的な学習の時間においては、学習の活動前後に児童生徒にアンケートを実施し、学びの意識の変容を把握した。
- ・ 特に、「住んでいる地域の歴史や自然について関心がある」と答えた児童生徒について、77ポイントから89ポイントと12ポイント上昇した。
- ・ 課題として、「もっと調べたいと思いますか」という質問項目に対して、「調べたい」と答えた児童生徒は70ポイントから72ポイントと微増であった。児童生徒の意欲を引き出すための学びの系統性を踏まえた単元の指導計画等の改善が必要である。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

- ・総合的な学習に時間に係る学習での成果物等は、全学年分をまとめて校内に展示し、来校者（保護者、地域住民等）に閲覧してもらった。
- ・研究主題「ふるさとに誇りをもち、主体的・協働的に学ぶ児童生徒の育成」を設定し、全道規模の公開研究会を実施した。
- ・系統性・連続性を踏まえたカリキュラムの編成や探究の過程による単元の指導計画を作成することができた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

- ・地元の漁業従事者の協力により、漁船に同乗しての鮭の定置網漁を体験した。また水揚げされたばかりの鮭を用いて、地元料理研究団体の指導による調理実習を実施した。
- ・公益財団法人、博物館職員の協力により、学年に応じた内容で知床の自然や動物について調査・生態に関するレクチャーを実施した。
- ・地域コーディネーターと連携し、地域ボランティアを活用した取組や新たな地域人材の発掘、地元還元できる活動の工夫に努めている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成 (200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

今年度、他校との交流は行うことができなかった。しかし、次年度の総合的な学習の時間において、他地域の世界自然遺産についての探究活動を設定し、それらの地域にあるユネスコスクールとの交流を計画している。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

- ・ これまでに取り組んできた活動や内容をESDの視点で整理しなおしたことにより、学校全体での位置付けを明確にすることができた。
- ・ 発達の段階に応じた系統性・連続性のある教育課程の編成・改善を図ることができた。
- ・ 教職員一人ひとりが取り組み内容を振り返り、課題が見られた時には改善策を検討するなど、学校運営に参画する意識が向上した。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

- ・ 平成29年度に引き続き、地域の漁業関係者と連携をして、サケマス孵化場の見学や鮭の定置網起こし体験を実施する。
- ・ 博物館や公益財団法人と連携し、自然遺産についての学習やフィールドワークを行い、生物多様性・人と自然とのつながりを実感できるような学習活動を実施する。
- ・ 学習した内容については、観光客や地域住民に向けて、観光協会や道の駅の協力のもと発信活動を行う。修学旅行時においては、基幹空港である新千歳空港で知床のPR活動を行う。
- ・ 組織的・継続的に取り組めるよう、重点項目をはっきりさせた教科横断的なESDカレンダーの作成を行う。
- ・ 全校の取組として、「世界一大きな絵2020」に参加する。